

コミュニティ協議会との意見交換等のまとめ 個表

桜堤コミュニティ協議会

① 運営の工夫・利用者（住民の満足度）の向上

利用者への配慮と適切な対応	【現状】卓球セットやオセロ、トランプ等の貸し出しを行い、気軽にコミセンに来て楽しめるようにしている。
新しい利用者・利用団体の増加	【現状】子どもから高齢者までが一緒のチームを作り、世代間交流が生まれている。子どもと大人の輪投げ大会・ポッチャ大会を実施している。
施設の利用方法の工夫	【現状】多くの方が一堂に集まれる部屋がない。 【工夫している点】隣接する上水北公園も活用することで、「夏まつり」や「星の観望会」など多くの方が集まる事業の実施ができています。
情報の提供	【現状】イベント情報やお知らせ等を掲載している会報を3カ月に1度発行している。

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体 とコミセンとのつ ながりづくり</p>	<p>【現状】利用者懇談会を年1回開催し、利用団体同士の交流、また利用団体と地域のつながりの創出に取り組んでいる。</p> <p>【工夫している点】未就学児の親子を対象としている「親子広場（子育てについての情報交換等）」の参加者に、「よみきかせ」への参加も呼びかけるなど、継続的なつながりづくりが意識されている。「よみきかせ」の終了後も幼児室にて、参加者同士の交流が促進されている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】子どもと大人の輪投げ大会、ポッチャ大会、利用者懇談会、お餅つき、夏祭りなど、地域団体と連携して事業を実施している。例えば子どもと大人の輪投げ大会は、地域の高齢者団体との共催で実施しており、地域のケアセンターからの参加もある。また、ケアセンターと共催で介護予防の講習会を実施している。小さなコミセンだからこそ、地域団体の力を借りなければ事業実施が難しい点が、結果としてつながりを生んでいる。</p> <p>【工夫している点】ポッチャ大会の練習場所として地域の学校の体育館を借りることがあるほか、協議会から桜野小学校の子ども館推進会議委員に人を出すなど、学校とのつながりづくりに取り組んでいる。また、地域団体とは、各団体の代表者と密に連絡を取っているほか、事業実施に向けては各団体に協力依頼をして準備会にも出席してもらい、団体同士のつながりをつくっている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員 の人材充実</p>	<p>【現状】運営委員の入れ替わりはあまり多くなく、高齢化も進んでいるため若い世代の参加を得ることが課題となっている。そのような状況の中でも、2019年度は3名の新しい運営委員が参加している。若い人や新しい運営委員の参加で新しい事業や意見が進められて変化が表れている。市境という立地条件のため、他市の利用者から運営委員として活動している方もいる。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】「天体観望会」という事業は講師の都合により継続が困難になったが、利用者からの継続を望む声が多く寄せられていた。</p> <p>【工夫している点】「天体観望会」を継続するため、野外活動センターへ相談し、新たな講師の紹介を受けて、現在も事業を実施できている。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】協議会主催のサークルを3つもっている。</p> <p>【工夫している点】サークルは囲碁同好会（桜碁会）、カラオケ同好会、絵手紙（みどりの会）があり、定期的に活動している。</p>